

激震 中国全土を揺るがす

五月十二日午後二時二十八分、四川省北西部の汶川県（北緯三二度、東経一〇三・四度）でマグニチュード8の大地震が起きた。この地震により、吉林省、黒竜江省、新疆ウイグル自治区を除く中国全土が揺れた。その影響はベトナムやタイにまでおよんだという。

廃墟と化した震源地

四川省北川県に住む涂文群さんは、小高い場所にある公園でお茶を飲んで

いた。すると突然、地面が激しく揺れ、立っていることができなくなってその場に倒れた。

しばらくして立ち上がってみると、周囲の山が激しい勢いで崩れていた。「私の目の前で旧市街区が消滅していききました。あたり一面に塵埃が巻き上がり、谷底は真っ暗になりました」

涂文群さんは県城の広場に運ばれた。ここでは、三、四千人の人々が背中合わせに座ったままで一晩を過ごした。岩石が崩れる音がひっきりなしに

響き、誰一人として目を閉じることができなかった。

北川県は中国唯一のチャン族（羌族）自治県だ。今回の四川汶川大地震で死者も傷者もつと多い地域の一つでもある。県城の建物の八〇%が倒壊し、人口一万三千人のうち、四千人あまりしか逃げ延びることができなかった。

北川県の県城はくぼ地にあり、周囲は標高五〇〇メートルから一〇〇〇メートルの山に囲まれている。県城と外界を結ぶのは一本の山道のみ。地震

の発生後、県城に近い区間はねじ曲がり、路面の断裂の落差は数メートルにも達した。また、山崩れによる落石などで道路の一部は寸断され、さらに周囲の山からは絶えず落石があるため、県城は外界とほぼ断絶されて陸の孤島となってしまった。

県内の楊家街自由市場は、被害がもっとも深刻な場所のひとつである。地震によって平行移動してきた建物で押しつぶされ、その後にあつたいくつかの建物は影も形もなくなつた。ここに店を構えていた向世勇さん（四十二歳）は、ちょうど別のところにて難を逃れたが、店に出ていた妻は帰らぬ人となつた。

地震発生時、北川中学の生徒たちは授業の最中だった。六、七階建ての校舎は崩れ落ち、人と同じぐらいの高さになってしまった。二十一あった教室の中にいた約千人の先生と生徒たちの多くがこの中に埋もれた。

北川県で地震に遭遇した人によると、建物自体の揺れや崩れは言うま

でもなく、もっと恐ろしかったのは山崩れだという。山崩れによって、山麓の建物はほとんど埋まり、その中にいた人は逃げる時間もなく、生き埋めになったのである。

震源近くの汶川県に位置する映秀鎮、漩口鎮、臥竜鎮などの八つの集落は、ほとんどが廃墟と化した。とりわけ映秀鎮は、人口一万人あまりのうち生き延びたのはわずか二千三百人あまりだった。

都江堰市から映秀鎮までの道路は全線が麻痺状態に陥り、映秀鎮に入るために必ず通らなければならない白花大橋は、完全に崩れ落ちた。

交通が寸断されたため、被災地の食料や薬、飲用水、そして救急器具は極度に不足した。人々は戸板や石、タンスの板を担架の代わりにして死傷者を運び、被災者たちは木の板を使って臨時の避難所を作り、生存者たちは水源を探し求めた……

そのうえ、余震も絶え間なく発生。五月十九日午後一時までに、地震発生地域で起こったマグニチュード4以上の余震は百五十五回、マグニチュード5以上の余震は二十四回に達した。もっとも大きな余震はマグニチュード6.1だった。

四川省のほか、震源地から比較的遠い陝西省の西安市や甘肅省の一部でも死傷者が出た。三十二年前の唐山大地震に比べると、今回の四川汶川大地震



5月13日、子どもの消息を待ち続けていた女性。難にあった生徒の遺体が運ばれてきたのを見ると、こらえきれなくなって駆け寄り泣いた